TAISATYUI
大佐中尉
FULLMETAL ALCHMEMIST
床子屋
Presented BY TOKOYA

大佐中尉

FULLMETAL ALCHMEMIST

Presented BY TOKOYA

ハガレン二回目。
今回はなかなか本編で進展しないお2人で。
私的に、当初はカップリングというよりも
コンビという印象が強かった
マスタング氏とホークアイさん。
カップリング決定打というのは、例にもれず
6巻のアレなんですか。

でもアレが大佐の事であるとは限らない訳で。
読み返すたび、アレがマスタングさんじゃなかったら
どうしようかという
漠然とした不安でいっぱいです。
いや、それはそれで。
そういう展開もまたそそるという気がしないでもありませんが！

2003・鬼頭えん

大佐！中央移動に際して問題がひとつ!!
俺 最近カノジョできたばっかなんス！
ドド
別れろ
ばっさり
中央で新しい女をつくれ
ちーーーん.

何だよ ハボック少尉 辛気くせえな
カノジョと やらは 後腐れなく 別れられ たんだろ?
ええ それはもう ブレダ少尉
清々しい程 気持ちよく
詳しく 聞こうか ファルマン 准尉
決死の覚悟で 切り出した別れ話は 実にあっさりと 承諾されたようですな
はからずも マスタング大佐の 仰った通りに!
よかったじゃ ないか
よくねぇよー よくねぇだろ
すくなくとも お相手の女性を 傷つけずに すみました
でも 近しい女性と 離れてしまう という点では 大佐も同じな 訳ですし
それを 考えれば——

あ？
何だって
そうなる？
え？
だって
大佐には
ホークアイ中尉が
いるだろう
そうそう
おふたりは
そういうご関係
だったんですか?!
ちがうのか？
厳密に言うと
現段階では
何とも
言えませんな
で でも
あの中尉が
マスタング
大佐と…
ちょっと想像
出来ないと
いうか――
そうか？
え？
だって
割と想像に
難くないと
思うがな
そうそう

口紅の色を変えたのかね
ホークアイ中尉
誤字を見つけました
修正をお願いします
マスタング大佐
今日中に目を通して頂く書類がまだありますので
早急かつ迅速にお願いいたします

何か？
いや
こういう時は
にこやかに笑って
会話を楽しむ
べきじゃないかと
思うのだがね
円滑な
人間関係を
築くために
そうですか
貴方は私の上官です
そんな事を
なさらずとも
敬意を払い
お使えしますから
どうぞ安心して
お仕事に集中なさって
下さい
あ
これも誤字
ですね
中尉――
それとも
それは命令
ですか？

では命令と
しようか
ホークアイ中尉
――こういう時の
貴方の命令は
ろくな事では
ないのでしょうね
ははは
何を言う
せいぜい
優しくキスして
くれたまえと
言う程度のものだ
一度
だけですよ

何……
ち……
中尉っ……
明日から
いつもの口紅に
戻します
これ以上仕事を
さぼられても
困るので
中尉!!

一度だけと
言いましたよ
――と まあ
こんな感じで
同人女もまっつぁおの
ハーレクイン風
ラブロマンスと言うのは
さすがに無理でしょうが――
何です？
それだけか？
それだけですよ

いくら大佐でも仕事中色事に及ぶ事はなさらんでしょう
不謹慎ですなブレダ少尉は何を考えてるんです？
そうかもしれねえがそうじゃねえだろ!!
落ち着いて！落ち着いて下さい少尉!!
甘いな准尉！
仮にそうなったとしてあの人がそのまま終わらせると思うか？
ほう
と言いますと？
中尉が見せたわずかなスキ！大佐がそれを見逃すハズがねえ!!
言いきりますね
そうだな例えば

事あることに
執務室に
中尉を呼び出し
て――
……ふっ……
ん…
んうっ…
ん……
ふ・んっ
ふうっ…
ん
……んっ…

ん
っ…
んっ…
んっ…！
んむ
ふぅっ…
う…！
はぁっ…
——さて
ふ…
…はっ…

──もう少し協力してもらえると助かるんだが
舌を絡めてくるなり声を出すなり──
はぁ…
はぁ はぁ
中尉?
ああ口を塞がれていては声は出せないかな
大佐……っ
…こういう時は名前で呼ぶものだよリザ
それとも──

これはセクシャルハラスメントというのでは？
大佐
それともその方が興奮するのかね？
リザ・ホークアイ中尉
つ…
執務室の机の上で上官との情事にふける――
さぞや君の背徳感を刺激するのだろうね
は…
あ…！
ふあっ！

は…
あ…んっ
それに
セクハラなどと
言いがかりも
いいところだ
んっ！
んっ…
ああっ
大佐っ…
んうっ！

あっ…
…腰を上げたまえ 中尉
このままでは服を汚す事になりかねんが？
ああ無論 私はこのままでも——
——何を考えているんですか 貴方は
貴方の行動はあまりに危うい
こんな事をして貴方を快く思わない輩に知られたらどうするつもりです？
その上身の破滅を招くような事を何故——

腰を上げろ
中尉
命令だ
はい
はっ…
ズッ
はあっ
んっ
んっ
ズッ
ズリッ
ズチュ
んっ！

う…
はっ
んっ
ん
んあっ
あ…
うんっ
はあっ♥
あんっ
ふはっ
ああっ
はあっ

もっと
ゆっく…りっ
は…あっ
ひ…あっ
は…っ
ゆっくり…か
は…っ
はあっ

では
ふっ
中尉？
命令…
ですから…っ
ああっ
たい…ぅっ
んんっ！
この行為を
拒絶すると
言うわけでは
ないのだね
──成程！
あっ

んあ！
あっ！
はあん
まさに『狗』の答えだな
ああっ
では命令だ
中尉
はっ
より『狗』のようにふるまいたまえ
あ…
たい…さ

私だけの
『狗』にな…！
ん…あっ♥
ビクン
はあっ……
ビクン

――明日も
この時間部屋に
来たまえ
中尉
『狗』に相応しい
新しい命令を
与えよう
――はい
大佐……
――とかなー

…お前いつもそんな事考えてるのか？
だが中尉の淫欲の日々は始まったばかりだったのだ!!
はははははははははは
――ようこそ皆さん
今夜は私の『狗』を紹介しましょう

さあ 皆様に
ご挨拶だ
ホークアイ中尉
大佐…
…この方々は………
私の友人
だよ
大切な ね
それ以上の
事を知る
必要はない
君は私が
いつも教えている
ように
やればいい

…はい
――『焔の錬金術師』の飼い犬と言うからどんな猛犬かと心配したよ
マスタングくん

狗の躾には
自信が
ありましてね
皆さんの
ご期待は
裏切りませんよ
ですが生憎
あれは私の
飼い犬では…
…何…?!
では
君……
ご安心下さい
命令には
従いますよ

だが頭を垂れても尻尾を振る事はありません
命令には絶対服従だがそれは自らの意志によるもの
望んで従属し思ったままに動いてるだけです
無論今こうしている事も——
そういった意味で彼女は狂犬と言えるのでは？

狂犬だと？
まさか噛み付いたりはするまいな
それはご心配なく
ふっ…
は…あっ
お・おっ
うむっ
んむっ
ふ…
成程…っ
躾は行届いてると言う事かね

ホークアイ…
階級は中尉だったかな
軍人としての腕も立ちこちらの相手としても申し分ない
君のような部下を持つマスタング大佐が本当にうらやましいよ
っ…!
戦場で女を調達する面倒も省けるということか
んうっ
んぶっ
ン…!!
おむっ

ん…
んうっ
…っと いかんな
うっかり 口に出して しまったよ
やはり若い女性には 中にたっぷり 出してやらないと 失礼というものだな
…
お若い ですなぁ
私など この年になると そう簡単には
相手にも よるのでは ないですかな 私は女房とは もう何年 も――
………

さてと
では私から失礼させてもらおうか中尉
え…
マスタングを上にやるためか
あ…
あっ？
たい…さっ
は…あっ
ああそうだとも
全ての軍人が君のように献身的であったらと思うよ
ひ…あ
せいぜい我々を楽しませてくれたまえ
あああっ

やっ…あ…
ひ…あ
あはっ あっ
はあっ
はっ
さすがに軍人の女というのはいいですな
あうっ
んあっ…
鍛えているせいかしまりが違う
はうっ…

い…あっ
あはっ…
あーっ
これだけきついとまるで子供としているようだな
はあっ
あんっ
いつだったかイシュヴァールの――
あああっ

はうっ…
おや 絶頂かね 中尉？
—では 私も失礼 させてもらうよ
んっ?!
やれやれ しようがない 娘だ
ん…
う…っ
おや また 随分と 出たな
ん———っ♥
やはり 若い娘だと 違いますかな？
いや まったく ですな…

………
さてと…
ではお次は
誰が？
では私が
よろしい
ですかな
ああ勿論
どうぞ
これ以上は
待てそうに
ありませんよ
ズププ
うんっ…
ん…

んぁ
ああっ
はあっ…
めとっ…
ああっ
んっ…
んむっ
あんっ
あっ！
あふっ
あっ…?!

な…何を…
ああほら
あばれちゃ
いかんよ
命令だよ
後ろは
初めてと
言うわけでは
ないだろう？
い…いやっ…
リザ
……
っ……
ズ
ズ
たい……

あ…
あ… はっ
思ったよりも すんなり 入ったな
だ…めぇ
あああっ
ダメと 言う割には 節操の無い 体だな中尉?
や…っ
ああっ!
君のここは 私に絡み付いて 放してくれそうに ないようだぞ

軍人と言えどもただの女だな
はあん♥
こうなってしまっては
んむっ
ずっ
んぶっ
ずっ
ずぷっ
んっ…
んふっ
ずっ
もっと腰を動かしたまえよ中尉
そうだかたくしめたままでな
私達の手を煩わせないようにだ
あんっ
あんっ
これは君自身の目的なのだからね

私…
私は…っ
こんな……
ああほら 休むんじゃない ホークアイ中尉
犬は犬らしくしたまえ！
んーっ！
んんっ

んううっ！
はあっ
ああっ！

――大佐は出世のためならなんでも利用する恐ろしい男だ
例えそれが人の思いであってもな
で――
それからも中尉は鬼畜大佐の昇進のために其の艶やかな餡肉をお偉いさんたちにささげ――
ゴズッ!!
誰が鬼畜だ誰が!
…………
…痛いじゃないスか
うるさい仕事しろ馬鹿者!
あの…大佐…今のハボック少尉の話は――

あんなものデタラメに決まってるだろう馬鹿馬鹿しい!
い…いえそうでなく!
結局のところ大佐と中尉とはどういった――
知りたいかね?
フフフフフフフ
聞かなきゃよかった…
聞くんじゃなかった…
はぁ
……
そうだな…一言で言えば大人の付き合い……
お前らの想像よりはるかにハードだ!
んなっ!?

―マジっスか？
まあ聞きたいというのなら話してやらん事も無いが・
実はっ
ぱんっ
……………
っ……
狙撃……？
いやー本っ当にいい腕してるねリザちゃんは
いえまだまだですよ
END

修正完了誤字
↓
マスタング大差　ホークアイ注意
——微妙（笑）。
完了してないものがあっても
ここはひとつ見なかった事に。

大佐中尉

発行＊床子屋
発効日＊2003年12月30日（コミックマーケット65）
監修＊HEIZO
連絡先＊toko-ya@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/toko-ya/

大佐中尉

FULLMETAL ALCHMEMIST